

第5回新生公立鳥取環境大学設立協議会 議事概要

日時 平成23年5月25日(水) 16:45～17:40
場所 鳥取県庁本庁舎3階 第4応接室
出席者 鳥取県：平井知事、石田教育次長、高橋企画部長
鳥取市：竹内市長、橋本次長兼学校教育課長、松下企画推進部長
鳥取環境大学：八村理事長、古澤学長、谷口常務理事

○平井知事あいさつ

- ・今、東日本の大震災を契機として、もっと環境にやさしい、そのようなライフスタイルを求めよう、またそのような産業を求めようという動きが全国的に強まってきた。
- ・また、期せずして日本の経験が世界に対して、そのようなシステムチェンジを求めるようになってきた。
- ・そのような意味で、環境大学が未来に向けて使命を担う契機が訪れたということも言える。
- ・皆様のお力を得ながら、公立化を含めた新生鳥取環境大学の再生に向けて、私達は取り組んできた。
- ・昨年度、それぞれの市議会、県議会の議論をいただいて、オーソライズをしてもらい、さらにこのたびは文部科学省への届出で、いよいよ、前に進むということが見えてきた。トンネルの出口が迫ってきた。
- ・皆様のこれまでのご労苦に本当に感謝を申し上げたい。
- ・ただ、私達は新しい大学を創るのであり、カリキュラムを一新すること、さらに、教授陣も大幅に入れ替わることにより、魅力を増していくべきだという論もある。
- ・また、これまでの経緯を考えた場合に、経営見通しを明らかにしていく。そして、そのための対策を練ることのできる組織構造に変えていく必要があるというのも課題であった。
- ・これまで、様々な議論を通じて、今原案をまとめつつあるところであり、今日は是非とも皆様の方から今後の運営方針についてのご議論を賜りたい。
- ・鳥取県では、県議会が来週の1日から開会をすることになる。市議会も開会が、迫っており、公立化をするのであれば、当然ながら、この6月の県・市議会でそれぞれに議会の了解を得ていく必要もある。
- ・大事な議会になってくるので、そこにどのような内容で今後の運営方針を明らかに提示させていただくのか、これが、重要な課題である。
- ・限られた時間であるが、皆様の忌憚のないご意見を賜り、東日本大震災を乗り越えた新しい地球の在り方に鳥取環境大学が大きなメッセージを発する存在になるよう、心からお祈りを申し上げ、私の方からのあいさつとさせていただきます。

●事務局

- ・本日の議事・報告事項として予定しているのは、次第に掲げているとおり、新生公立鳥取環境大学の運営方針(案)及び新生公立鳥取環境大学の公立化後の定款案(骨子)について、新生公立鳥取環境大学の学部学科改編の申請について、また平成24年度入学試験についての3項目である。
- ・本日はこの議題・報告事項を一括してまず説明をさせていただいた後、皆様のご議論を賜りたい。

●中山事務局長

資料1から4まで説明(略)

●古澤学長

資料3 新任教員について説明(略)

○竹内市長

- ・経営学部が新設される。そしてその入試について、学生が受験モードに入っている段階であり、どのような経営学部になるかということ、より具体的に、早いうちから知らしめることが、非常に重要だと思う。
- ・この公立鳥取環境大学にとって、新しい経営学部がどんなものとなるか。教授陣の話など、今、学長からお聞きすると、例えばロジアの経済などの話もあったが、相当魅力のある、レベルの高い、そして鳥取の地にふさわしい、いろんな良い要素が入っているのではないかと思う。そのようなところがアピールできるかどうかというのは、経営学部のスタートにあたっての大きなポイントである。
- ・文部科学省への学部改編の手続が届出で進むことができるようになったのは、事務局の相当な努力があつてのことだと理解しているが、是非早い段階からのPRをお願いしたい。
- ・オープンキャンパスを6月12日にもう既に始めようということで、予定しておられるようであるので、そのようなところから始めてできるだけ具体的に紹介していくことが、第1期生をこの学部十分に獲得する上で、重要ではないか。かなり意欲に燃えた方々に入ってきてもらいたいという思いからも、十分特色をPRしてほしい。
- ・その他、運営方針の案等については、県・市でしっかりと連携をとって公立大学法人としての新しいスタートをしっかり支えるとともに、県民・市民の皆さんにも十分に話をして理解と支援をお願いしていくということを、県・市としても行いつつ、大学とよい関係を築いていきたい。運営方針案も大体そのような枠組みになっていると思うが、県・市の十分な連携のもとでの新しい大学の運営を期待している。
- ・その関係で、特に様々な審議会とか委員会等、例えば、教育研究審議会や経営審議会に学外委員をかなり入れようという意図が伺われる。
- ・こういったことに関しては、やはり、近隣の民間というか、いわゆる私学。この私学の経営ノウハウというのは引き続き非常に重要だと思う。
- ・従来の例でいえば、加計学園など。そういったところとの経営のノウハウなどの連携。或いは、大学の教授、教育内容や学生同士の交流を含めて考えて、近隣の私学などとも、これまでも築いておられた連携などを十分に生かして、機動力のある、時代に合った大学運営が、学外委員の方の積極的な提案で、議論をリードしていただく部分というのはあっても良い。
- ・公立大学になった途端に官僚化しても困るので、そのような柔軟性があり、そして、地域社会、或いは時代のトレンドを踏まえた様な、そのような意見が経営なり教育研究の審議会等で出てくることを期待したい。
- ・そのような私学のノウハウなどが生かせる体制を考えてほしいということをお願いしたい。

●中山事務局長

- ・市長が言われたように、経営学部、環境学部のPRということは、非常に強く考え、運営をしているところである。
- ・今回は3月にオープンキャンパスを初めて行い、6月にまた新たに実施するというにしている。
- ・さらには、大学側で県内、それから今まで大学の方で訪問をしていなかった近隣の兵庫・

岡山・鳥根の高校まで、学長以下、自ら訪問していただくようお願いをしているので、大学挙げて、職員のみならず教員も挙げてのPR体制を構築いただこうかと思っている。

- ・それから、先ほどの学外委員の件について、市長が言われるように非常に今回配慮したのが、より外部の声、いわゆる私学とか、より優れた例を大学委員の中に取り込むにはどうしたらいいかということである。
- ・このため、人数割合としては、他の公立大学に引けを取らない、或いは、教育研究審議会に至っては、他の大学以上の学外委員を入れる規程にしている。
- ・そのような人事のご提案等、市長、知事の方からまたお示しいただき、より積極的な経営を導入できる人材を入れるということを配慮していきたいと考えている。

○竹内市長

- ・経営学部は、環境学部と定員が同じだったと思う。環境学部での学生募集の経験はこれまでであるが、経営学部での募集は初めてになる。そのようなことを考えると、経営学部で大学の半分以上の定員を確保する必要がある。
- ・初めてのことであるから、リスクというか危機感を持たないといけない。環境大学のことを一般的に説明してざっと行くというだけじゃなく、特に経営学部というのはこんな経営学部であると。世の中には多くの経営学部、経済学部、商学部とかがあるので、特徴を出す必要がある。皆初めてで分からないわけであるので、その辺りを是非期待したいと思う。合わせて環境学部の人気も上がることを期待している。

○古澤学長

- ・今までの反応を見ると、経営学部の反応は非常にいいと感じている。
- ・それと、今、ご心配されているように、経営学部については、基本的な部分はそろえたが、よその大学と同じに経営学部をつくっても仕方がない。
- ・特にこの大学の経営学部については、地域経営。これは、新しい学問領域でなかなか教員集めは難しかったが、特に地域経営というものに重点を置いて、そこを柱にしたい。
- ・そして、もう一つは国際経営。この2本柱を中心にして、経営のスキルに必要な情報を取り入れた4つのプログラムを用意しており、まったく新たな印象である。
- ・鳥取県に向けた地域に対応できる経営学というものがしっかりと作れた。

○高橋鳥取県企画部長

- ・今回初めて、このような新しい教授陣の姿が見えてきて、県民の方にも生まれ変わろうとしている大学の具体的な姿が見えてきたということなのかと思う。
- ・市長も言われるように、新しい教授陣のお披露目というか、例えばミニ講座みたいなことを県民向けにやっていただき、このような研究をされ、このようなことを教えている先生ですよというようなこととか。或いは、高校に出向いて、高校生を対象にそのようなことをやっていただくとか。そのようなアピール、お披露目をしていただけるような工夫をしていただけるといい。
- ・あと、来年4月が迫ってきて、具体性をいかに出していくかということであるので、例えば西部サテライトキャンパスでも非常に関心の高い工夫であるので、こんな姿のこんな機能を持ったものであるということを出していく必要がある。
- ・また、トルク（とっとり地域連携・総合研究センター）との統合の関係で、新しい地域連携のセンターであるが、これも昨日、トルクの理事会で概ねの方向性としては基本的に皆様の了解を得ることができた。
- ・しかし、単純にトルクが入ってきて、センターと名前を変えるということだけではなく、

新しく生まれ変わった大学が大学として地域連携をやっていくときに、このセンターを使い、大学側からも教授陣などに入っていていただき、活動の深みを増していくというようなことも是非ご検討いただきたい。

○古澤学長

- ・言われたとおりであり、単にトルクが大学に入ってきただけではだめだと思う。
- ・大学でいろいろと活躍される先生もおられるので、是非とも一緒になって、地域連携・地域貢献をやっていききたいと我々も考えている。

○石田県教育次長

- ・新しい環境大学に大変期待するところであり、環境大学の方針の中にもある地域貢献活動。これは、私はありがたいことであるし、期待しているところである。
- ・大学は、やはり知の拠点であって、優れた研究の施設設備、それから情報を持っておられたり、最先端の研究に携わっておられる大学の先生もおられる訳である。
- ・是非、そのような先生方のお力をお借りし、或いは協力していただいて、県内の子ども達の、例えば知的好奇心であるとか、より高い学びにこたえていただけるような、そのような面での学校との連携なり教育ができればと思っている。
- ・また、大学の方でも、そうしたより高い学びを望む子ども達を対象としたような、ゼミナールというか、講座というか、そうしたものを開いていただけると、子ども達が、将来は、例えば環境大に入って、こういうことを研究したいと。或いは、広く日本でこういうことをやってみたいとか、活躍してみたいとか、そういう大きな夢が描けるのではないかと。
- ・運営方針であるが、そうした面での地域貢献活動、学校或いは子ども達の育成は、この1ページの一番下に書いてあるのではないかとと思う。
- ・特に学校という言葉は出てこないが、地域社会という言葉に学校を含めるというとらえ方で読ませていただいた。
- ・そのような面での連携をまたお願いしたい。

●中山事務局長

- ・その辺りは、表現的な工夫を考えたい。

○松下鳥取市企画推進部長

- ・大学の内容が見えてきて、非常に感慨深いものがある。
- ・先ほどから出ているが、公開講座などで、地域の人々に新生大学を早く実感していただくということが大切である。
- ・企業とか他の大学などとの接点を十分に持っていただき、是非地域活力の核となっていたくような取組をお願いしたい。
- ・この公立大学法人化については鳥取独自の方法であり、この方式での公立大学法人化がまもなくかなうということで、これは、先進的な成功事例に絶対するべきである。
- ・それから、鳥取市にしても、県にしても、いろいろな施策を持っている。鳥取市とすると、若者定住とか、ガイナレーとの連携とか、中山間地域振興とか、いろいろな施策があるが、従来よりも増して、連携をどんどん図っていただき、これがまた大学としてもブランドを高めていくことにつながっていくと思う。
- ・これはお願いであるが、とにかく我々との連携も以前にも増して力強いものにしていただきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

○橋本鳥取市次長兼学校教育課長

- ・現場に一番近い立場ということで発言させていただく。
- ・我々は義務教育にかかわっているが、鳥取の子ども達にとって今一番欠けているのが、夢や希望を持つというような状況になっていないことだと思う。
- ・これは、全国的な調査でも明らかになっており、何とかこういうものを機会に鳥取の子ども達に夢や希望を与えていただきたい。
- ・そのような意味でも、夢や希望がより具体的なもので、分かりやすいもの。そして、手の届くものであるということが、子ども達にとって大変ありがたい。
- ・大学もそのような場であっていただきたいというのが、私達の立場からのお願いである。

○平井知事

- ・是非この機会に、新しい大学がこれからの日本に必要なものであると。つまり、子ども達にとって、この大学に入って日本の未来をつくろうと。そのような思いを持ってもらえる大学にする必要がある。
- ・今、東日本の大震災があって、そして環境が見直され、それから日本という国の経営だとか、例えば、産業の空洞化が起こるのではないかと、様々な懸念が持たれているわけである。
- ・だからこそ、今我々はここで、大学を再生させて、経営学部というものを設置し、そして、環境学部を強化して、これからの日本に必要な、地域に必要な人材をつくる大学を立ち上げるのだというプリンシプル（原理、原則）を、この際大学の準備なりの時に確立してもらってはどうか。
- ・最近の世の中の情勢を見ていると、公立化された新生鳥取環境大学の設置というのは、時代的な意味を持ちうるものだと思う。
- ・10年前には、少々時代よりも早かったのかもしれないが、今の方がさらにそれにふさわしいものが整って来ているのではないかと。
- ・これから学生募集をかけようと思う。それから地域に向けて新しい大学はこういうところですよと呼びかけることとなる。その時に、そのようなメッセージを、これからの日本の再生に必要な鳥取環境大学の陣容をこうやってつくると。そのような新しい大学をつくると。それを強烈に出していただいてはどうか。
- ・この次の4月に向けた学生のマインドをどうやってとらえるか。それから保護者のマインドをどうとらえるか、高校の先生達の意欲をどう高めるか。
- ・それが問われている時期なので、ここは一つ勝負をかけて、少し幅広く言った方がいい。
- ・従来の大学を公立化したということではなくて、今の時代が必要とする新しい大学を我々がさらから作り直した。このようなことで、世の中に訴えかけていった方がいい。
- ・これからいろんなパンフレットを作ったり、オープンキャンパスをされるということである。
- ・小林先生の本なども読ませてもらったが、面白いと感じた。あのような本を読んでいると大学に行ってみたいという気持ちになったりする。それはテレビにでて活躍されるのもよく分かる。
- ・大学にも、そのようないろんな人材がいる。今度新しく来られる泉先生は、テレビなどにも出ておられる。
- ・そのようないくつかキャラクターというか、セールスポイントを少しあぶり出してみても、学生や世間にキャッチーになるPRを是非この場で、大学としてやっていただきたい。
- ・これから県議会と市議会での議論もあると思うが、もう時間に余裕はないので、もうスタートを切った方がいい。

- ・それから、教学の面では、学長の方でいろいろと苦勞をされて、理事長とも御相談されて、いい体制が整いつつある。
- ・後は事務局の体制。こちらに今度議論を中心に移していかないといけない。
- ・先ほど、市長が言われたが、民間のテイストを入れる必要がある。
- ・その意味で、事務局体制の中に、そこをどうやって上手に埋め込んでいくのか、これを考えなければいけない。
- ・あまりにも官僚的な大学にしてしまうと、窮屈なことになるので、そうではないことが必要だと思う。
- ・経営審議会の陣容もできるだけ早く作っていく必要がある。
- ・大学ができない限りは経営審議会を作りませんということではなく、むしろ大学をスタートさせる前から、このような経営をしていこうという考え方があるので、前倒ししてでも、このようなどころはスタートをさせていく必要がある。
- ・それから後、この運営方針を拝見させていただき、中期目標というものを作っていくという仕組みになっている。
- ・これは、地方独立行政法人法の仕組みで入っていると思うが、これからこの大学の設置を議論する際に、県民も市民もそうあるし、議会もそうであるが、最大の関心は、これからの経営がどうなるかということ。
- ・だから、この中期目標の設定も、大学法人ができてから初めて動き出すという以前からきちんと議論して、中期目標を明らかにして、このように安定的な経営をしていくところを、数字的にも明記しながら、それに沿った大学のスタートをきってもらうのがいいのではないか。
- ・これは法律の手続とは若干たがうかもしれないが、やはり住民の関心にこたえていく必要があるので、是非配慮していただきたい。

○古澤学長

- ・先ほど東日本の大震災の話があったが、現在、大学の先生も被災地に行かれています。中治先生は地震の関係で、中橋先生は景観の関係で行っておられる。
- ・また、三野先生は塩害水田の関係で行っておられる。それから田中先生と松村先生は廃棄物の関係で行く予定である。
- ・このことについては、また後日全体の報告会をやっていただこうかということで計画をしている。

●中山事務局長

- ・中期目標とか、そういった数値目標の部分は、法律の手続よりもかなり前倒しした格好で、作業を進めさせていただきたい。
- ・運営方針では、どうしても文言的な部分がでていっているので、より具体的に作業を進めていきたい。

○平井知事

- ・運営費交付金の関係で、当初予算は、県と市がつくることになると思う。
- ・市議会でも県議会でもそうであるが、住民に説明責任を果たすためには、やはり経営の目標なり、数値目標を明らかにしながら、その交付金をどのように設定するかというのが必要だ。
- ・先ほどの基金などの整理も、法人ができあがるより前に決めていくことが必要。

○竹内市長

- ・対外的な説明、議会或いは市民には、そのようなものが必要。
- ・どこまできっちりしたもので行くのか。まずは、その予算の構成なども、中間的な案としてまとめてほしい。
- ・それぞれ県・市から資金を出すものなので、新年度予算として、割りと早い時期に分かってないと困る。そのような事情があるので、会長が言われた、前倒しでの検討という点は重要な点だ。

○八村理事長

- ・今の会長の話、大まかな所を知事・市長の了解も得ながら考えたい。

●事務局

- ・今後、いろいろと積極的に取り組むべきこと。PRであるとか、或いは体制づくりであるとか、多々あり、これらについては、きちんと受け止め、また事務局の方で準備していきたい。
- ・本日提案したこの運営方針、或いは定款案の骨子あたりについては、概ね皆さんの方でもご異論がなかったように思った。
- ・冒頭、中山局長が申し上げたが、こういった案を、6月の県議会・市議会の方で報告させていただき、議会で議論していただこうと思っている。
- ・以上で、本日の協議会を終了したい。

以 上